

私は、北海道生まれ、北海道で育ち、大学卒業時に、多くの友人が道外に就職するなか、「北海道のために貢献したい」という気持ちが強かったため、北海道で働くことを決めました。

大学で建築を学び、建築設計の仕事を一心不乱に行っていましたが、結婚後、思わぬ流れで、建設コンサルタントの仕事に就くこととなりました。

建設コンサルタントとして、まちづくりに関わる仕事に携り、様々な分野の計画づくりや行政施策に関する調査・検討、地域活動の支援などを行ってきました。29歳で建築士、31歳で技術士の資格を取得し、その後は、様々な仕事をまかせていただき、管理職ともなり、また、青年技術士交流委員会に所属して技術士会活動も積極的に行い、子育てもしながら、目まぐるしい毎日でしたが、とても充実していました。

まちづくりに関わっていく中、期限付きの仕事、また、受注者という立場で思ったようにできないことが多く、ジレンマやストレスを抱えてきたため、2019年に起業し、現在に至ります。まだ、会社を軌道に乗せることに四苦八苦していますが、次のステージとして、とまらない妄想を1つ1つ実現し、ほんの少しでも地域の未来に貢献できればと、奮闘する毎日です。やっと、先日、地域の拠点として、「つぐの間」というカフェをオープンしたところです。

また、技術士会活動は、多くの人との関わりや自分の成長につながり、技術士になって良かったと思うことの1つです。サプライズ人事で青年技術士交流委員会の委員長をやったこともありました。現在は、社会活動委員会、技術者のミライ研究委員会、倫理委員会などで活動を行っています。

これからも、「技術士」として、全力で駆け抜けていきたいと思います！

永井 登茂美 (ながい ともみ)

- 建設部門(都市及び地方計画)
- 総合技術監理部門(建設)

勤務先

合同会社 LinC



→次号は、千葉 裕さん(建設部門)

私はコンサルタントではなく公設試験場の研究員という立場ですが、このような執筆の機会をいただき感謝いたします。私は、2004年に社会人となりコンサルタント会社に就職しました。入社後は、要件を満たし次第、すぐに技術士取得に励みましたが、企業在籍中の技術士取得はかないませんでした。現在の勤務先に転職した2012年度、6度目の挑戦により技術士試験に合格しました。また、現職では、東日本大震災からの住まいの再建を目指す地域の方々と共に活動を行いながら、研究蓄積10年、在学期間6年という月日をかけ、2022年3月に博士号の取得に至りました。仕事では、課題を整理する力、人と対話する力、そして物事を動かす信念が重要と感じますが、大学での在学期間や、技術士・博士号取得の過程で学ぶことができました。現在も実務を通じ、日々研鑽し続けています。

私の勤務する「道総研」は、農業試験場や工業試験場など、北海道立の研究機関が地方独立行政法人化して誕生した分野横断的な研究機関です。北方建築総合研究所は旭川市にあり、北海道の寒冷地住宅・建築の技術開発や、北国の都市計画・まちづくりに取り組んでいます。北海道内における人口減少下の地域において、生活の「共助」や産業の「協業」により持続性を確保していくため、異分野の研究者と協力しながら、日々地域を走り回り、地域の方と対話し、説得し、地域から多くを学びながら、地域の将来の在り方を模索しています。

思えば、私も40歳を過ぎ、地域を担うべき世代に差し掛かりました。遠く離れた故郷に対し何ができるのか自問しながらも、多くの地域に力になれるよう、これからも取り組んでまいりたいと思います。

石井 旭 (いしい あきら)

- 建設部門
(都市及び地方計画)

勤務先

(地独)北海道立総合研究機構
建築研究本部 北方建築総合研究所



→次号は、朝倉靖弘さん(森林部門・総監部門)